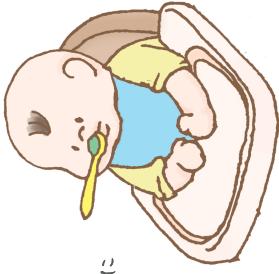


離乳食アドバイス

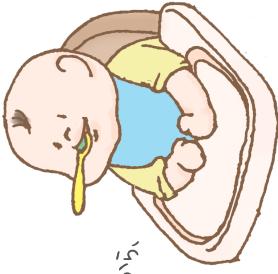
赤ちゃんのペースに合わせて

母乳やミルクだけを飲んでいた赤ちゃんにとって、固形食へと移行するには大きな変化。
最初からうまくいかないのは当たり前です。
あせらず、ゆっくり、赤ちゃんのペースに合わせて、
楽しんで進めましょう。

スプーンでの食べさせ方



- ① スプーンを下唇の上に
ちょこんと置き、
口が開いて
耳にさばのを待つ。



- ② 上くちびるで挟んで
耳にさばのを待つ、から、
スプーンをゆっくり
水平に引く。



- ③ ゴックンを行ってから
次のひどさい。
こぼしたら、
優しくスプーンで
すくってあげる。

これはNG!
× 口の中までスプーンを入れる
× 上あごに擦り付ける



初期 中期

中期(生後7~8か月頃)



歯が生え始め、
豆腐の硬さ程度のものを、
舌と上あごでつぶして食べます。

1日2回

- 味や舌触りを楽しめるように食品の種類を増やしていきましょう。
- 鉄が不足してくる時期なので、鉄の摂取を意識した食材を取り入れて。
- まだ栄養の中心は母乳や育児用ミルク。
- 母乳は赤ちゃんが欲しがるだけ。
育児用ミルクは1日3回程度あげましょう。



まずは食べる慣れること。
飲み込むこと(ゴックン)を
覚える時期です。

1日1回

- まずはたくさん食べることよりも、口に入った離乳食を唇を開じて飲み込めるようになることが目標。
- 新しい食材は、ひとさじ量で試し、食物アレルギーの反応や消化の状態を見ながら少しずつ進めていきましょう。
- 母乳や育児用ミルクは、赤ちゃんが欲しがるだけあげましょう。

全がゆ 50~80g

角または肉なら… 10~15g
豆腐なら……… 30~40g
卵なら……… 卵黄1~全卵1/3
乳製品なら…… 50~70g 1回あたりの目安です

初期(生後5~6か月頃)



舌の動きや歯の生え方、
口の発達

離乳食の食べさせ方と 授乳の目安

- ペースト状から始めましょう。
- ペースト状は使わずに、出汁など素材の味を生かしましょう。
- 調味料は少しづつ加えて味をつけても。

つぶしがゆから始める
▼
さりつぶした野菜なども
試してみる
▼

慣れてきたら
つぶした豆腐・白身魚、
卵黄などを試してみる

炭水化物
米・パン・めん類・いも
ビタミン・ミネラル
野菜・果物
エネルギーとなる
体の調子を整える

たんぱく質
魚・肉・豆腐
卵・乳製品
体を作る

離乳や赤ちゃんの成長に関する心配や知りたいことがあります、病院や保健センターの管理栄養士、保健師などに相談することができます。

離乳食スケジュール

後期 完了期

ざっくり

手づかみ食べは大切

ポイント1

初めはステイック状のゆで野菜などからスタート

慣れてきたら、小半円など形状をえて。
最初は歯茎で噛める柔らかいもの、
徐々においがいいくらい。



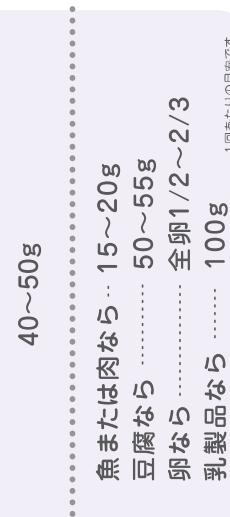
ポイント2

汚れてもよいエプロンを



ポイント3

床にビニールシート等を敷いておけば、後片付けも楽



完了期(生後12～18か月頃)



かじったり、
噛んだりが上手に。
手つかみ食べが中心ですが、
次第にスプーンやフォークを使いたがるようになります。

●1日3回+補食1～2回

- 食事の合間に「補食(おやつ)」を加えて。
- 補食には、お菓子より果物やいも類などを。
- 母乳は欲しがるだけ、育児用ミルクは食欲や成長に応じてあげましょう。
- 牛乳を加熱しないで飲めるようになります。

後期(生後9～11か月頃)



食べ物を前歯で噛み切って、
歯茎でモグモグ食べるようになります。
自分で食べたい、
触りたいが旺盛になります。

●1日3回

- 母乳は欲しがるだけ、
育児用ミルクは1日2回程度あげましょう。
- 歯茎でつぶせる、食べごろのバナナが硬さの目安。
- ステイック状のものから、手つかみ食べの練習もスタートして。
- 食べる楽ししさを知るために、よく噛めるもの、
つぶしながら食べるものなど、様々な食感を取り入れて。

軟飯 90g～ご飯 80g

30～40g

魚または肉なら…15g
豆腐なら……45g
卵なら……全卵1/2
乳製品なら……80g 1回あたりの目安です

軟飯 90g～ご飯 80g

40～50g

魚または肉なら…15～20g
豆腐なら……50～55g
卵なら……全卵1/2～2/3
乳製品なら……100g 1回あたりの目安です

離乳食の食べさせ方と
授乳の目安
(調理形態)

食べ物の硬さ

エネルギーとなる

炭水化物
米・パン・めん類・いも

ビタミン・ミネラル

野菜・果物

体の調子を整える

たんぱく質
魚・肉・豆腐
卵・乳製品
体を作る

離乳や赤ちゃんの成長に関して心配や知りたいことがあれば、病院や保健センターの管理栄養士、保健師などに相談することができます。